

No. 94

2014年（平成26年）
11月1日

発行
浄土真宗本願寺派
和歌山教区日高組
責任者
片桐 淨 映



聞いてみなんせ
まことの道を
無理な教えじゃ
ないわいな

妙好人 六連島のお軽



日高組「子どもの集い」 — キッズサンガ —

阿弥陀経に聞く

五濁とは、劫濁（私たちの願いがいつも踏みまじられる時代の濁り）、見濁（みんな自分が正しくて、他人が間違っていると思ひ込んでいる考えの濁り）、煩惱濁（自分の都合のよいようにしか物事を見ることのできない迷いや欲望の眼の濁り）、衆生濁（みんなのことを考えず、自分の目先の利害にだけにこだわる人間が人間らしさを失う社会の濁り）、命濁（いのちの尊さを忘れ、自分のいのちも他人のいのちも粗末にするような濁り）の五つを言います。

『正信偈』の中に、如来所以興出世 唯説弥陀本願海 五濁悪時群生海 応信如来如実言の四句が出てきます。これは、「如来がこの世に現われてくださった願いはただ一つ、阿弥陀如来の広大な本願を説くためである。だから、五濁悪時に雑草のように泥にまみれて生きるほかはない方々よ、おシヤカ様が大きな真実を説いてくださった、そのことをば信ぜよ」、こう呼びかけておられるのです。特に、あとの二句は、五濁悪世に流れ流れて、私はどこへ行くのでしょうか。そのような私に、アミダさまを信じ、よき人に遇え、そしてそのよき人が語ってくださる大きなまことの教えを聞きなさい、それが私を生かす力となってくださっていると教えていただいているのです。説法の難とは、五濁の悪邪無信の盛んな時に説法することの難かしいことを頭わしています。また、経文に「一切世間難信の法」とありますが、菩薩さまでさえ難しい法を自力のころをひるがえして信じれば、これほど易しいことはありませんということ。自力を誠めて難信を易信の至極にすることを勧められるのです。

（永原智行）

「地獄極楽」

「先生、地獄と極楽ってあるん？」

ふとした興味からか、お家の人から何か聞かされたのかはわかりません。私がお寺の人と知って知らずか、休み時間に数人の子がよってきて聞いてくれました。

「どう思う？」

「良いことをいっばいしたら極楽、悪いことをいっばいしたら地獄へ行くと思う」

「地獄ってどんな所？」

「閻魔大王に舌をぬかれる」

「血の池に落ちる」

「針の山もあるで」

「熱いお風呂に入れられる」

「手足をちぎられる」

「死ぬことができない」

私が小さい頃、夢中で読んだ本にあった通りです。子ども達に、大きなテールのご馳走の話をしました。「二つの部屋があり、そのつくり、人数、料理などどれも同じです。集まった人

たちの腕には、長い長い箸が縛り付けられています。ひとつの部屋では、自分で食べようとして怒りと絶望感が、もうひとつの部屋ではお互いが食べさせ合い和気あいあいの雰囲気がありました」

「どっちがいい？」
「食べられるほうがいい」と笑って答えてくれました。

この話は、現実社会で、どのように生きるのか、そこで起きる出来事にどう向き合えばよいのかを教えてくださいています。

親鸞聖人は、

「無明煩惱われらがみにみちみちて、欲もおおく、いかり、はらだち、そねみ、ねたむころおおく、ひまなくして臨終の一念にいたるまでとどまらず、きえず、たえず」と、わたし達の本当の姿を見据えられています。

家で、職場で、「わたし」が身を置くあらゆる空間、環境、条件の中で、「わたし」の立ち振る舞いを見つめなおさねばならないと感じま

す。心がけ一つで、「わたし」の周りが地獄にも極楽にもなるということ。常に感謝や思いやりの心を持つことの大切さを教えられます。地獄極楽は、あの世の話ではなくこの世の話なのだと思います。子ども達との話でした。

「どっちがいい？」

「極楽のほうがいい」

世の中のだれもが笑って答えてくれることを願っています。

（北山憲昭）



法悦クイズ

官製ハガキにクイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、所属寺、ご感想・ご意見等を明記の上、下記までお送りください。

〒649-1223
日高郡日高町小浦195
円行寺内 日高組事務所

※抽選で10名の方に粗品を進呈いたします。

※締め切り日
平成27年1月20日(必着)

※発表は次号

浄土真宗のお寺は何のためにありますか？

次の1～3の中から一つ選んで番号を書いてください。

1. 檀徒の先祖を供養するため。
2. 僧侶が修行する施設として。
3. 仏様のお心を自らの生きる依り所にしてもらうため。

93号の正解は、「1. お経の本は、畳に直接置かない」でした。正解者の中から、次の方に粗品を進呈いたします。

由良町 中 美幸様	由良町 中崎エミコ様
由良町 尾崎 孝子様	由良町 濱口 直子様
由良町 岩崎 信子様	由良町 久保千代子様
由良町 畑中 宏之様	南丹市 佐々木磨美様
御坊市 塩田 廣一様	亀岡市 佐々木禮子様

『寺院活動の 新たな可能性』

個人的なことですが、昨年十月にNPO Kネットという非営利活動団体を立ち上げました。主な活動は、「地域見守りサポーター養成事業」と「ふるさと元氣プロジェクト」の二つです。

見守りサポーターとは、災害時に援助を必要とする方の日常生活を日頃から見守り、その情報を入力してゆくボランティアのことで、データベース化された情報が災害時に活用できるシステムを開発中です。和歌山大学のシステム工学部や経済学部の諸先生方との共同研究により、日高町の協力の下で昨秋よりサポーターを養成し始めています。



妙願寺サマーキャンプ夕涼みライブ

ふるさと元氣プロジェクトは、文字通り、地元ふるさとが元気で活き活きとした町となり、過

疎対策や観光資源の発掘に寄与する活動です。すでに宮子姫の里をつくる会への参画など、「観光でふるさとを元氣に！」をスローガンに動き出しています。

この二事業に関わり、「社会に求められている寺院活動とは何なのか」がうっすらと見え始めたような気がします。

「お寺が子どもの居場所に」なるため、キッズサンガ(妙願寺日曜学校サマーキャンプ)を開催して十年を超えます。昨年は夕涼みライブという新たな試みも取り入れ、地元の音楽愛好家に協力頂き、世代を超えて集う時空が持てるようになったことで、参加者の反響も良いよう

夕涼みライブでは、「寺院という空間」を最大限発揮できるよう、堂内の照明にこだわった幻想的な演出(ろうそくの照明)やホールに近い音響に、非日常的な風景があり俗世間の利害を忘れさせる空間美があったのではないかと思います。

そして何よりも、お寺にご縁の無かった方が家族で気軽に足を運んでくれる機会ができたことで、地域の方々との距離が縮みつつあることが実感できています。

寺院は、苦悩の衆生を一人も

漏らさず救い摂る弥陀のお慈悲をお聞かせ頂き、念仏行を実践する場ですが、それも多くの方々に知って頂かなければ始まりません。葬儀や年回法要などの「仏事」のご縁だけではそれにも限度があります。

法要儀式や布教伝道の場合もちろんですが、イベント開催や遊び場として、社会のニーズに添った活動を実践し、公益法人としての役割を果たさなければ若い世代や無関心の方に仏法を伝えていくことも難しい時代ではないでしょうか？

地域活性化という課題は簡単な問題ではないですが、まず寺院が活性化する必要があります。組内・教区内でも拙ります。組内・教区内でも拙ります。組内・教区内でも拙ります。組内・教区内でも拙ります。

子どもを募っても在所に六名の小学生しかいない。でも少ないからできないわけではないし、工夫次第では大勢の参加も期待できます。今回のキッズサンガも総勢五十名のうち、小学生以下の参加が十五名を超え、七名がテントで宿泊できました。ご門徒さんがほとんどだったことはいうまでもありません。

寺院・僧侶だけでイベントを

考える必要はありません。総代さんを始め、お寺の組織ぐるみで考え、まずはできることから始めればよいと思います。

全国に八万ヶ寺ある寺院が少し重い腰を上げ、行動に移せば、日本国中の地域が活性化する可能性は十分にあると思います。(楠原晃紹)

門徒心得

ほうおんこう
「報恩講」

この地方では、この時期各お寺やご家庭で「報恩講」の法要がお勤まりになります。

報恩講は、親鸞聖人の三十三回忌の法事を起源として、毎年ご本山(西本願寺)では一月九日から十六日の午前中の七夜(お七夜)の間に法要が勤修されています。

それは、聖人のご遺徳をたたえ、ご恩を報いる法要です。その法要に参拝者が集いますが、集まりを「講」

と呼ばれています。浄土真宗のみ教えに帰依する門徒にとっては大切な法要(集い)なのです。

親鸞聖人は、阿弥陀如来の願い(本願)のみ教えを明らかにされ、私達にそのみ教えをお勤め下さいました。おかげさまで、私達は、み教えに出逢い、お念仏申す身となり、ご往生させていただけなのです。

近年はご家庭で「報恩講」をお勤めするご縁が少なくなりました。お寺によってはご門徒が一同に集う「総報恩講」としての形で法要が勤められている所もありますが、各ご家庭において報恩講のお勤めをお勧めします。一度ご院様と相談してみましよう。

なお、所属寺院や、近くの寺院では「報恩講法要」がお勤まりになりますから、ぜひお誘い合わせ参拝しましょう。

ご信心を得て、浄土往生する身とならせていただくことこそ、親鸞聖人のご恩に対する報謝となるのです。(鈴木悟峰)

日高組
仏教婦人会
研修会

九月二十九日(月) 婦人会はじめての試みで一日研修旅行を行いました。参加者は四十三名。行き先は、海南組の冷水御坊・飯盛山了賢寺でした。
紀州真宗の起源と称せられるお寺です。ご住職の松本教智さまから、当時にま



つわるお話や、親鸞聖人と蓮如上人の連座の二尊会画像のお話、本願寺八代宗主蓮如上人が法話をなし「信心獲得章の御文」一通を認めて与えたお話をしてくれました。
また、寺院の宝物であります蓮如上人筆『八字名号』『十字名号』『正信偈二幅』『和讃一首』等、拝見させて頂きました。
(荻野益次)

日高組通信

☆行事報告

・日高組総代会第二回念仏奉仕団
七月七日、八日 三十六名で参加し、内七名が帰敬式を受式しました。

・日高組キッズサンガ

日高組主催の二十六年度キッズサンガ(子どもの声が聞こえるお寺に)八月二十三日(土)日高町小浦円行寺で開催され小学生からお年寄りまで75名が参加し、夏休みの良き思い出づくりとなりました。今回は総代会より、専福寺門徒濱出将俊氏(和歌山県レクリエーション協会副理事長)に協力をお願いし、むかし懐かしい竹製の水鉄砲づくりを指導いただいた。また、仏教婦人会の仏典童話読み聞かせや楽しいレクリエーションなど、盛りだくさんの内容で世代を超えて楽しむことができました。

第三ブロック(紀南組・御坊組・日高組)門信徒総研修会が八月三十日(土)日高町保健福祉センターで開催され260名の門信徒・僧侶が集いました。研修会では、「願わくはこの功德をもって…」と題して東海教区三重組正覚寺住職内田正祥師よりお話を聴聞しました。

☆行事予定

・日高組「真宗法座」開催
日高組第二十回「真宗法座」を次の通り開催いたします。
日時 十二月十四日(日) 会場 教専寺(由良町阿戸) 講師 釋 徹宗師
どなたでもご参加いただけます。お誘い合わせご参加下さい。

あじやせ
「阿闍世のすべて」出版
教専寺 永原智行住職



由良町阿戸、教専寺の永原智行住職(52)が法蔵館から初の著書「阿闍世のすべて 悪人成仏の思想史」を出版した。
阿闍世はお釈迦様の時代の王で、占いが原因で十七歳の時に父を殺害、母も手にかけてやうとするが、後に

改心してお釈迦様を支援するようになった。
権力争いなどを理由に家庭で起こる悲劇は現代にも通じるものがあり、阿闍世の生涯を通じ、悪人でも成仏できるという思想を考察する書である。
永原住職は、大学時代から阿闍世を二十年にわたって研究し、その集大成として一冊の本にまとめたもので「今年が教専寺創立五百年で、長年研究してきた阿闍世を世に出すことができせん」と話している。

・第三ブロック門信徒総研修会(聞法の集い)
和歌山教区主催 日高組が運営担当を行った。

